

結集！ コーディネーター・担当者研修

～ありたい子どもの育ち、ありたい地域の姿～

【講義】「地域と学校がつながる先にあるもの」

講師 一般社団法人コムスクえひめ代表理事 西村 久仁夫 氏

コーディネートする人とは？

・「人と人」「学校と地域」をコーディネートする（つなぐ）人

コーディネーターの求められる役割とは？

支援から



協働へ

お願いします！ 一緒に活動しましょう！

- ・コミュニティ・スクールの中で委員として参加
- ・学校側の想いを理解し、先生と地域を教育活動でつなぐ
- ・子どもたちを地域のいろいろな人たちと出遇わせる

地域学校協働活動をすすめるために、コーディネーターは
ネットワークの要になる重要な立場の人

地域学校協働活動ってどんな活動？

○地域と学校の協働による教育の活動

○地域資源をいかしたふるさと教育としてすすめられている

地域の想いや経験を伝える事が、子どもたちの確かな成長と、未来を担う人材育成につながります。

※結集！しまねの子育て協働プロジェクトより

地域学校協働活動が充実すると…

「子どもたちの確かな成長」⇒人づくり
「（地域の）未来を担う人材の育成」⇒地域づくり

今、教育が変わろうとしています

世の中が変わり地域総がかりで行う教育に方向が変わった

・小・中・高連携（縦の教育）
・学校と地域の連携協働による教育

→ コミュニティ・スクールの導入につながっている

コミュニティ・スクールは地域と教育活動をつなぐ仕組み

- ・地域の声をいかすコミュニティ・スクールの導入
- ・地域の声をいかす地域学校協働本部の整備

ふるさと教育の推進・充実につながる

しまねの目指す…人づくり・地域づくりにつながる



（講義資料より）

【実践発表】「雨ニモマケズ風ニモマケズ
～わたしは校区の人と人との縁をつなぐ営業マン～」

江津市立津宮小学校CSコーディネーター
江津市派遣社会教育主事

服部 由美 氏
佐々木 努 氏



○江津市のコミュニティ・スクールについて

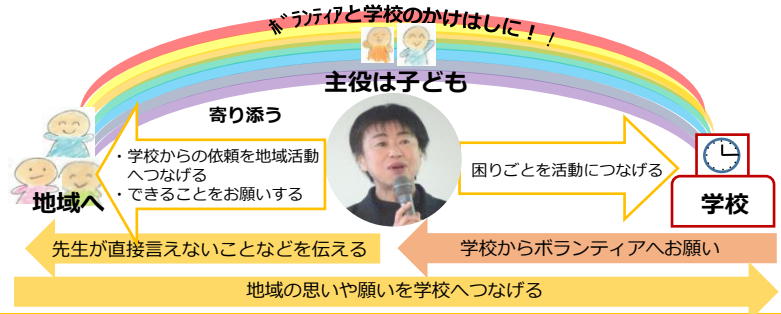
- ・令和6年度 コミュニティ・スクールモデル校として津宮小学校に導入
- ・令和7年度 4中学校、2小学校に導入
- ・令和8年度 4小学校に導入予定
→市内全小中学校に導入完了

○江津市におけるCSコーディネーターの役割について

- ・ふるさと・キャリア教育に関わる学校支援や協働活動のコーディネート
- ・学校運営協議会の開催準備等の事務局業務
- ・地域学校協働本部（江津市では教育活動関係者連絡会）の招集
- ・地域活動の情報収集

○服部さんがコーディネーターとして大切にしていること

- ・学校からの依頼をボランティアに丸投げしない→調整
- ・ボランティアさんを大切に→心配り
- ・名前がわかるよう名札づくり→一人ひとりを大切に
- ・大人も成長する活動に→活動に学びを！



○服部さんから

…悩んでおられたら…

- ・まずは自分の好きなこと、得意なことからやってみては…
- ・やらない後悔より、失敗してもやってみたほうが次につながる。

…多くの支えに感謝…

- ・周囲に協力者をみつけ、いろいろなことを「報・連・相」する。
- ・地域コミュニティ交流センター長や派遣社会教育主事からの支えやサポートに感謝。

○子どもたちに伝えたいこと

- ・大人の手仕事や、力仕事など直接見ることで、子どもが感動する機会を仕掛けたい。
- ・無心になって取り組めること、手仕事の楽しさを伝えたい。

（実践発表・資料より）

【交流タイム】 学校×地域～あなたのピースがカギになる～

○アイスブレイク

名刺交換会、自己紹介



○「地域と学校の連携・協働で印象に残っている取組について」グループワーク

印象に残っている活動は、どんな活動ですか？

防犯Mapづくり

ふるさと探求隊

お手玉づくり

小学6年生が地域への提案を実現

がんばったことや工夫したこと、その人の変化や学びは？

日々見守ってくださっている方と一緒に地域のことを知る

見る、触る、食べるを通して学ぶことができる

中学生が笑顔で子どもたちと接していた

子どもたちの提案を地域の人に周知し、協力実現につながった

お互いの距離が近くなり信頼感が高まる

地域資源を知る
＝
地域を知る

中学生がつくったお手玉を地元の保育園へ持っていった

○模造紙に貼り グループ内で共有



○グループ交流



【説明】「『結集！しまねの子育て協働プロジェクト』について」

島根県教育庁社会教育課 社会教育主事 若槻 慎也 氏

結集！しまねの子育て協働プロジェクトの目的

学校・家庭・地域が連携・協働しながら、**地域総がかりで子どもの成長**を支え、**地域を創生する活動**を推進する。

結集！しまねの子育て協働プロジェクトの事業概要

「学校支援」・「放課後支援」・「家庭教育支援」

地域学校協働活動へ

「結集！」で描く子どもたち・地域の未来

ありたい子どもの育ち

幼児期から中高生まで、子どもたちは地域の様々な人に支えられ、貴重な経験や体験を積み重ねて育っていきます。家族に愛され、地域で大切にされて育った子どもは、ふるさとに愛着を持ち、周りの人や自分を大切にできる心豊かでたくましい大人に成長していくと考えます。

ありたい地域の姿

子どもたちと関わる活動は地域住民にやりがいや元気、笑顔を生み出し、関わる大人同士のつながりは地域に魅力的な活動を生み出し、地域の活性化につながると考えます。

このような地域を目指すために大切にしたい4つのポイント

①多様な人々の参加

地域に出かけ、活動に参加してみよう！
あなたの知識や経験は地域にとって大切な宝物！

活動で出会った人との対話は、活動に価値や広がりを生み出します。

②対話

③会議体の活性化

会議で思いを共有しましょう。

「人と人」「学校と地域」…“ひと・もの・こと”の新たな出合いは、活動に新鮮さを与え、充実、継続につながります。

④コーディネートする人

（資料より作成）

【全体講評とふり振り返り】

○西村久仁夫先生より

- ・共通の目標に向かって人たちの仲間づくり、ネットワークをつくって相談していくことが大事です。今日ここで出会ったみなさんとの縁を繋いで、仲間同士のネットワークをつくっていき、それをつないでいく。縁をつないでいくというのは社会教育の強みです。
- ・コミュニティスクールが始まったことで熟議の場ができました。学校運営協議会の中の熟議をいかして、子どもたちの成長を優先に考え、その中で大人も楽しみながら活動ができるとよいです。

○ふり振り返りより ～自分の職務に取り入れてみたいと思ったこと～

- ・地域の想いや願いを伝えていく。
- ・役割をしっかりと果たすためにも、自分から子どもや地域のことを、もっと知ること（理解）が大切だと強く感じた。
- ・いろいろな現場に足を運ぼう！
- ・公民館事業も忙しいですが、なるべく地域や学校に出かけて、新しいひとと出遇ったり、雑談したり、活動につながる種を見つけていきたいと思います。
- ・学校も地域も互いに協働するよさを感じられるように工夫・しかけをしていきたい。

○アンケートより

- ・一つの事業を通して、沢山のねらいがある事、見方がある事、色々な方向から見なければいけないと思いました。
- ・服部さんの話から「好き」と「熱意」を感じました。一人ひとりへの感謝や敬意、それから安心してチャレンジできる環境があるからだと感じました。
- ・「まずは自分が楽しむ」「関わる人を増やす」など活動をしていく上で必要なキーワードを学ぶことができました。
- ・交流タイムでは、共通で関心のある話題を話すことができました。
- ・学校・家庭・地域の連携を意識して事業を計画・実施していきたいと思います。